

普及情報

廃校等の利用により、地域の核として輝く「田舎のコンビニ・マイスター工房八千代」

1 地域の概要

八千代町は、兵庫県の中央部、多可郡の南西部に位置する。人口6,200人余りの山村である。地元産業の衰退等で、1990年から都市と農村の交流を標榜した町づくりに取り組みはじめ、都市住民のふるさととして、さらには都市住民の定住化を目的に、全国に先駆けてグリーン・ツーリズムを推進している地域である。

2 起業活動の拠点は廃校等の施設

八千代町においても、例に漏れず少子化が進み、学校や幼稚園・保育園などの統合がすすめられた。かつて子供たちの元気な姿が見られた校庭、園庭に子供の姿はなく、建物だけがポツリと寂しげに建っている…そんな光景が多く見受けられるようになってきた。このような廃校等の施設を利用して、平成2001年4月、農村女性たち21名を中心とした、田舎のコンビニ的な起業活動の取り組みが始まり、現在、地域活性の拠点施設として輝いている。

3 人材を活かした地域資源の活用・廃校等の再生

2000年、統合や合併により、放置されていた八千代町北地区の農協店舗跡と、保育園跡を町が改修し、有効的に活用する話し合いの場がもたれた。町民より、「老人憩いの場、調理施設や研修施設、簡易郵便局、加工場等に活用したい。また、地元住民や都市住民に、昔ながらの田舎の味の手作りや地域の農産物を使った加工品を提供して行きたい」等の希望が出た。

話し合いの結果、実質的な施設運営は、長年の活動取り組みが評価され、生活研究グループを中心と

する女性たちに任されることになり「マイスター工房八千代」が誕生した。現在では、巻きずし、鯖ずしを目玉とした約1億円の女性起業に成長し、地域の元気の源となっている。

4 「田舎のコンビニ」は地域の交流拠点

「マイスター工房八千代」は地域の食文化にスポットを当てたコミュニティビジネスの取り組みでもある。長年積み重ねてきた伝統食や加工等の生活技術と女性の視点・感性を大いに活かし、地域に点在する問題を解決する場にもなっている。町等の支援を得ながら地域文化の掘り起こしや復活、伝承に大いに貢献している。その地域文化は「食」だけでなく、「地域コミュニティ」までも復活させた。現在「マイスター工房八千代」は地域においてなくてはならない交流拠点となっている。この交流拠点から新たな地域文化が生まれることを大いに期待している。

藤浪恵子（西脇農業改良普及センター）



“人よし、味よし、笑顔よし”の皆さん

ひょうごの農林水産技術 No.137

平成16年1月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）